

リーディング品目の振興～大和茶

要約

山添村では、経済樹齢(35年)を過ぎた老木茶園が多いため、収量・品質低下している。この対策として、H26年より台切更新を導入しているが、その効果の検証と未実施者への啓発を行った。

茶価の向上を目的に、てん茶の導入や海外向け茶の取り組みが始まっている。そこで、てん茶では棚施設の導入による省力化と品質の向上、海外輸出では使用薬剤の検討やGAP認証の取得

現状(背景)と課題

(現状)

- ・台切更新面積 516a (累計)
- ・棚施設導入面積 7a (累計)
- ・輸出向け生産取組茶園比率 38.3%

目標

- ・台切更新面積 50a (累計566a)
- ・棚施設導入面積 20a (累計 27a)
- ・輸出向け生産取組茶園比率 40%

活動内容

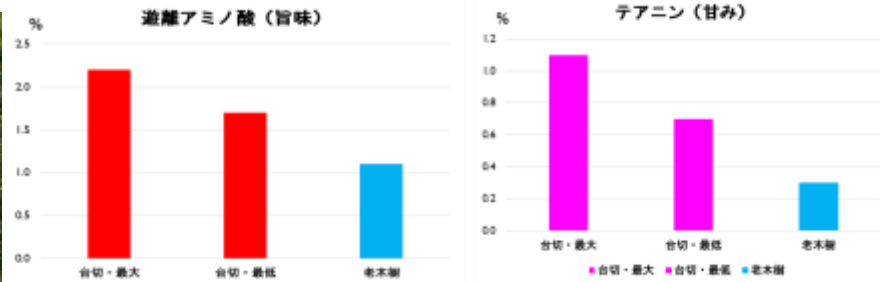
- ・対象：山添村茶生産組合
- ・台切更新：実施茶園の調査（生育調査、近赤外線分析による茶葉の品質調査）、導入啓発指導
- ・棚施設導入：現地実証圃の設置、作業性と外観品質の比較調査
- ・輸出に向けた取組：防除指針案の作成と現地実証

成果

- ・台切更新面積 50a (累計566a)
- ・棚施設導入面積 19a (累計26a)
- ・輸出向け生産取組茶園比率 38.5%



台切更新後の生育調査



近赤外線分析による茶葉の品質調査結果

※ 旨味成分、甘み成分とも台切更新が老木樹に比べて高い結果が得られた

展開作業の作業能率

	作業人数 (人)	作業時間 (時/10a)	労働時間 (人時/10a)
棚掛け被覆	2	1.4	2.8
直接被覆 [※]	4~6	1.0~1.9	6.0~7.5

巻取り作業の作業能率

	作業人数 (人)	作業時間 (時/10a)	労働時間 (人時/10a)
棚掛け被覆	2	1.6	3.2
直接被覆 [※]	3~5	0.7~2.1	4.0~6.4

※：直接被覆の作業能率の結果は農研機構の研究成果(2014)から引用しました



棚施設での被覆作業の検証

※ 被覆資材の展開、巻き取りにかかる作業性とも棚掛け被覆が直接被覆を上回る結果が得られた。

東部農林振興事務所農業普及課
 担当：担い手・農地マネジメント係 櫻井
 農産物ブランド推進係 辰巳
 リーディング品目支援事業

普及活動のポイント

- ・台切更新では、山添村が機械リース費用の補助を事業化。JAがハンマーナイフモアの作業オペレータ、普及が台切更新後の効果検証・未実施者への啓発と役割を明確にして支援。
- ・山添村の生産者は積極的にてん茶の導入に取り組んでいることから、県補助事業を活用し、棚施設の導入を推進。合わせて、実証圃として活用し作業性と外観品質を調査。
- ・海外輸出向けの茶生産では、残留農薬分析による防除暦防除指針の実証、GAP認証の取得希望者向けの研修会の開催や指導を行った。

対象の変化

- ・村、JA、普及が一体となった支援活動により、生産者の理解が更に強まった。

対象者からのコメント

- ・てん茶の導入を契機に山添村の茶単価が上昇している。茶の品質向上、実需者ニーズへの対応も含めて、引き続き普及の支援をお願いしたい。(JA 担当者)

これからの活動ビジョン

- ① 台切更新：調査結果を元に生産者への啓発を継続。
- ② 棚施設導入：てん茶生産者を対象に意向を確認しながら、県補助事業を活用した推進を継続。
- ③ 輸出に向けた取組：台湾向けに加え、アメリカ向け防除指針に基づいた茶の生産およびGAP認証の取得・更新についての支援。

活動体制



用語解説

台切更新

農業用機械ハンマーナイフモアを用い、茶樹を15cm以下で刈り取り、樹勢を回復させる技術。未収益期間が、改植の4～5年に対し2～3年と短い。



棚施設の導入・棚掛け被覆

てん茶栽培では摘採20日前に被覆を行う。慣行の直接被覆と異なり、棚掛け被覆では茶株面に被覆資材が接触しないため、茶株面の温度が上昇しにくく、葉焼けや強風によるすれなども発生しにくい。より品質の高い茶の生産が期待できる。

